

会 議 名	令和6年度第1回 木更津市駐屯地に関する協議会区長部会		
開 催 日	令和6年8月22日(木)	場 所	駅前庁舎 防災室・会議室
時 間	午後4時00～午後5時00分まで		
出席者	渡辺委員(木更津市企画部長・部会長)、遠山委員(新宿区長)、小原委員(吾妻区長)、山口委員(中里2丁目区長)、新堀委員(江川区長)、滝口委員(久津間区長)、進藤委員(畔戸区長) 齋藤2等陸佐(陸上自衛隊第一ヘリコプター団 高級幕僚)、姫野2等陸佐(陸上自衛隊第一ヘリコプター団第三科長) 阿部室長(北関東防衛局地方調整課基地対策室)、矢野係長(北関東防衛局地方調整課基地対策室)		
議題	木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について(公開)		
その他	なし		
配付資料	01 会議次第 02 委員名簿及び出席者名簿 03 【資料1】木更津駐屯地に関する協議会の概要 04 【資料2】第4回木更津駐屯地に関する協議会定例会の開催結果 05 【資料3】木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について(参考資料)第4回木更津駐屯地に関する協議会定例会議事要旨 (参考資料)木更津駐屯地に関する協議会設置要綱 (参考資料)木更津駐屯地に関する漁業協同組合部会設置要領		
概要	議題 木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について 【説 明】 ●青木 木更津市企画課基地対策係長説明 説明資料3に基づいて説明 【主な質疑応答・意見等】 小原委員)昨年、九州の方で米軍のオスプレイが墜落したが、吾妻区をはじめ基地周辺の住民にとって、墜落しないだろうかといった不安があるということ、また、来年度から暫定配備が終わって佐賀に移駐することになっているが、予定通り配備することができるのかどうか、佐賀の進捗状況について教えていただきたい。 姫野第三科長)米軍のオスプレイの事故については、今月上旬に防衛省から事故調査報告書の概要が公表されているが、その中で、回転翼の下部のエンジンとトランスミッション部分の一部が壊れて墜落事故が発生したと判明している。当該部分が壊れた原因は、高速回転するギアの一部が壊れたことによるものである。一方で、操縦士は、当該部品が壊れる兆候を墜落する何十分も前に把握していた。安全に関わるセンサーが働いており、その状況が分かっていたにもかかわらず、操縦士は大丈夫と判断して飛行を継続してしまった結果、墜落したということである。本来であれば、兆候が分かった段階で速やかに最寄りの飛行場に着陸すればよかったが、そうしなかったことで、直接的な原因はギアが壊れたことによるものだが、そのような状況に至った原因として、操縦士の判断が良くなかったということをも米軍が結論付けている。よって、機体の構造上の問題はなく、非常に安全に特化した高度なセンサーにより兆候を把握しやすい航空機であり、仮に我々が兆候を把握した場合には、速やかに飛行場に戻って点検を行うといった態勢をとっている。 阿部室長)佐賀の状況については、陸上自衛隊のオスプレイの移駐に必要な施設整備を来年の6月末を目処に、佐賀の方で行っているところであり、その後に、機体等の移駐を進めようと考えているところである。 小原委員)移駐は6月末以降ということか。 阿部室長)そのとおりである。		

	遠山委員)米軍のオスプレイの墜落事故の状況について、専門書や報道を見ると、米軍というのは意外とルーズというふうに聞いており、一方で、自衛隊の場合は、厳格にやっていると聞くと本音なのか。要するに警告ランプがついても、過去の経験から大丈夫だというのが米軍のやり方で、それに伴って事故が多発しているというように聞いているが実際のところどうなのか。 姫野第三科長)警告ランプがついて、飛行を継続するということについての判断要素となるかは分からないが、気質・体質的な例えとして、オイルが漏れていた場合に、米軍は、オイルが入っているから大丈夫だという判断をする。一方で、自衛隊は、オイル漏れすら許さないという体質があり、陸上自衛隊にはそうした潔癖性がある。 滝口委員)騒音と高度の関係について確認させていただきたい。過去に草刈りをしていた際にヘリコプターの影を感じることがあった。飛行する高度にはどのような基準があるのか、国やどこかで決められていてそれを維持しなければいけないのか。また、高さが高くなればなるほど騒音は軽減されるものなのか。安全上、低い方がいいのか高い方がいいのか、そういったことについて教えていただきたい。 姫野第三科長)まず、騒音については、高度が高ければ距離がとれるので音は小さくなる。影を感じたとのことだが、理論上は、太陽光は直進するので、影の大きさは、高さに関係なく同じ大きさになると思われる。しかしながら、影を感じたということは、恐らく、比較的低いところを飛行していたものと考えられる。機種によって異なるが、高度と速度に応じて一番安全なところを飛行する基準があり、仮にエンジンが止まった場合においても、滑走路に着陸できる高度を操縦士は選択する。よって、最も安全な高度と速度を選んで飛行している。 滝口委員)安全に飛行しているということであればやむを得ないが、高度が高ければ音が小さくなるということであれば、基準の中で騒音を軽減する努力を最大限していただきたい。以前よりもヘリコプターの数も減って、騒音の状況は改善されているが、高度によって騒音が軽減できるのであれば、対策の一つとして考えていただきたい。 山口委員)先ほど、佐賀駐屯地の工事の進捗の中で、来年6月末に竣工ということで、それから移駐という話があったが、暫定配備期間5年というのは、来年の7月9日までで、6月末竣工後移駐で、5年の暫定配備期間は守ることができるのか。 阿部室長)陸上自衛隊オスプレイの移駐に必要な施設については、令和7年6月末までに完成させる予定であり、その後に移駐を進めることになるが、移駐の具体的なスケジュールについては、現時点でお示しできる段階ではないことからご容赦いただきたい。 山口委員)5年の暫定配備期間が守られるかどうかというところであるが、もし移駐が7月に入ってからとなると、普通に考えれば、5年を過ぎてしまうのではないかと考える。工事と並行して、移駐できるものについては移駐していただかないと、5年の暫定配備期間というのは守られないのではないかと思いますので、その辺を考えていただきたい。 阿部室長)ご意見として承らせていただく。 山口委員)もともと5年というのをどう考えていたかということで、5年で陸上自衛隊オスプレイが移駐できるように進めているものと思っていたが、5年という約束はぜひ守っていただくようお願いする。 阿部室長)繰り返しになるが、ご意見として承らせていただく。 進藤委員)騒音の問題について、畔戸の方は、基準を下回っているとのことだが、誰が測定をしたのか。 阿部室長)木更津市が行っている騒音測定の結果を踏まえると、住宅防音工事の補助を行う基準である62を上回っていない状況である。 進藤委員)騒音測定を行う場合は、地元の方を入れて測っていただきたい。関係者だけで測定しても誰も信用しない。 阿部室長)あくまで参考として木更津市が行った騒音測定の結果を引用させていただいたものである。 進藤委員)地元の方を入れて測っていただきたいと提案している。いつも基準を下回っているといっても、実際に私は調査を見ていないのだから、信用できないし、周りに説明ができない。それから、畔戸区には187軒あって、そのうち50軒が対象外
--	---

	区域となっている。同じ区の中で分かれていると運営が大変である。防衛大臣にも陳情に行ったが何も変わらないし、この場で言っても何も結論が出ないと思うが、どう思っているのか。 阿部室長)大変難しい問題だと認識している。 進藤委員)国防であれば、協力できることはなんでも協力するが、ただ、それに対して、国の方で補助金などしっかりやってくれればいいが。 阿部室長)ご意見として承らせていただき、また、関係各課に共有させていただく。 新堀委員)西風が強いときに、ホバリングの位置をずらして、騒音に配慮していると聞いたことがあるが、確認させていただきたい。 姫野第三科長)西風が強いときは、清見台の方にも音が届き、騒音の苦情が寄せられている。そういった場合は、ホバリング位置だけでなく、飛行経路についても、西の洋上から直接入り、つまりは住宅街の上を飛ばないように配慮している。また、一定の飛行経路を飛行していると常に騒音の影響があることから、一旦東京湾を南下して、時間を空けて再開するといった配慮も行っている。その他にも、ホバリングの場所であるとか、夜間のエンジン始動・停止を行う場所についても、努めて駐屯地の西側で行うようにしている。 新堀委員)一番音がうるさいのは、飛行しているときよりもホバリングしているときなので、できる限り西側の方でやっていただき、騒音に配慮していただきたい。 滝口委員)音源を他に移せばいいということもあるが、移すにあたって、移すところがどういう状況なのか、また騒音による被害を受けるかもしれないので、全体を考慮した中で移していただきたい。 姫野第三科長)なお、我々が通常西側に離陸するときは、駐屯地の海に接しているところから離陸するようにしている。 遠山委員)暫定配備が終わって佐賀に移った後、木更津駐屯地内で整備している格納庫はどのように利用するのか、また、何機か木更津に残るのか。 阿部室長)現在17機が暫定配備されているが、17機全て佐賀に移駐することから残ることではない。 姫野第三科長)メーカー整備というものがあり、SUBARUが行うことになるが、定期機体整備の際には、佐賀から木更津に来て、現在整備している格納庫で整備することとなる。 遠山委員)整備に関して日本とアメリカの最大の違いは、アメリカの場合は、ボーイング社とベル社で2社に分かれているが、日本の場合は、SUBARUにしても川崎重工にしても、ヘリコプターも航空機も両方作っている。元を辿れば両社とも戦闘機メーカーである。アメリカと全く経緯が違うということも認識していただく必要があると思う。自衛隊にしても、先ほどの警告ランプの件にしてもしかり、日本の方が厳格であるということ発信する必要があるのかなと思う。それと佐賀に全て移駐して木更津には残らないとのことだが、例えば沖ノ鳥島は台湾よりも南にあり、南鳥島はカムチャッカ半島より少し西にあり、いずれも東京都である。こういった島々を守るのがオスプレイなので、私は木更津にあってもいいのかなと思う。 滝口委員)今、木更津飛行場周辺まちづくり実施計画というのをやっていて、久津間にある防衛省の土地に防災公園を作るという計画が進んでいる。個人的にはありがたいと思っていて、そういった意味で、共存共栄していけるような状況を作っていければと思う。 姫野第三科長)共存共栄という観点から紹介させていただくが、木更津駐屯地の北西部に日米共通の整備格納庫を建設していて、先般1棟が完成し、およそ2年後にもう1棟が完成する。その格納庫の近くに門があり、南海トラフなどの大地震が発生し、津波警報が発令した際には、その門を開けて近隣住民の方に避難していただくことを廣瀬駐屯地司令は考えている。また、先般、その門を開ける訓練等を行ったが、今後は、近隣住民の方々にも参加いただき、避難訓練など実施できればと考えている。 【その他】 ●佐賀駐屯地(仮称)の整備状況について 阿部室長)佐賀駐屯地(仮称)に関する工事については、令和5年6月から現場での作業に
--	---

	着手し、現在、隊庁舎や格納庫、整備場などの各建物の躯体等の工事や駐機場の地盤改良工事などを行っているところである。防衛省としては、陸自オスプレイの移駐に最低限必要な施設整備を令和7年度6月末までに完成させることとしており、その後、駐屯地を開設、陸自オスプレイの移駐を進める予定である。
--	--